

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	52人	算数	52人	理科	52人
------	----	-----	----	-----	----	-----

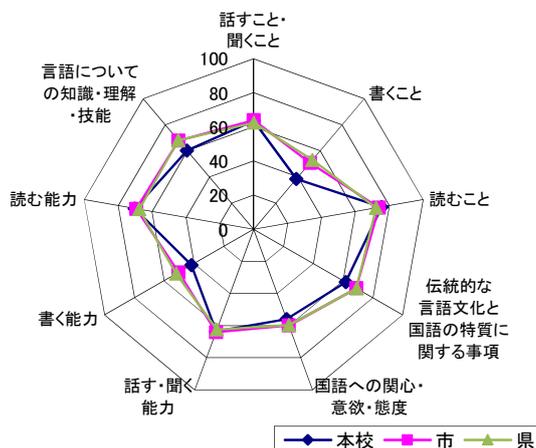
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.6	64.0	62.5
	書くこと	38.6	50.9	53.1
	読むこと	75.5	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.8	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	55.9	59.9	59.7
	話す・聞く能力	63.6	64.0	62.5
	書く能力	41.8	50.4	52.0
	読む能力	70.2	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	60.3	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

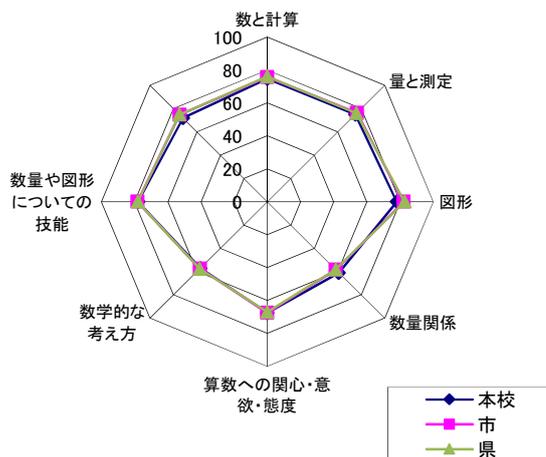
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の平均正答率は市平均よりも0.4ポイント低く県平均よりも1.1ポイント高い。 ○話し合いの内容を聞き取るなどの問題が市や県と比較してよくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の形態を工夫し、少人数で話したり聞いたりする活動を取り入れる。 ●実体験がない話題に対しては、話し合い活動の際、自分の考えを一度整理してから発言できるよう自分の考えをノートに書く活動を設ける。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は市平均よりも12.3ポイント低く県平均よりも14.5ポイント低い。 ●特に2段落構成で文章を書く問題の正答率が25.5%と低く、県の正答率と比較すると21.4ポイント低下している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●内容を整理したり文字数を制限したりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので、国語の授業などで要約したり、条件を付けて作文を書く練習をしていく。 ●日記や作文指導に継続して取り組んだり、目的意識をもって与えられた条件で文章を書く機会を設けたりするなどして、日常的に書く活動を増やしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は市平均よりも1.6ポイント高く県平均よりも3.3ポイント高い。 ○段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る問題では市や県のものと比較しておよそ10ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語の授業において、説明文で、段落相互の関係を捉えて読む活動を重点的に取り入れる。 ●文章の中から、大事な言葉を見つけ、それらをつなぎ合わせて文章にする活動を多く取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●領域全体の平均正答率は市平均よりも7.1ポイント低く県平均よりも7.3ポイント低い。 ●文の構成(主語と述語)についての問題が25.5%と正答率が低く、特に県と比較しても27.2ポイント低いことから定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字に関しては、今までの漢字の復習を行い、定着していないものに関しては、反復練習を取り入れる。また、文章を書く活動で、既習の漢字をしっかりと使えているか丁寧に添削を行い、定着を図る。漢字の「とめ・はね・はらい」に注意しながら書けるようにする。 ●前学年までの言語の基礎内容を意識的に復習していく。日記や感想文を書く活動では、意図的に会話文を取り入れて書くように指導し、「」の使い方を重視していくほか、主語や述語の関係においては、授業の中でも繰り返し指導していく。 ●国語辞典を身近に置き、初めて出会う言葉やわからない言葉をすぐに調べる習慣を身に付け、国語辞典の使い方の定着を図る。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.7	75.8	76.1
	量と測定	75.1	76.5	76.0
	図形	78.0	82.1	82.7
	数量関係	60.9	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	67.5	67.4	67.0
	数学的な考え方	57.1	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	77.9	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	71.9	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

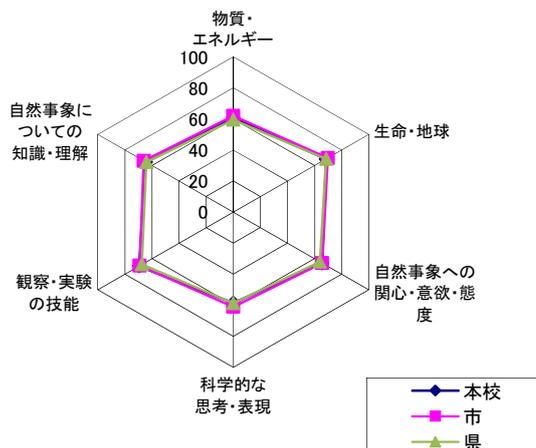
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は市正答率よりも1.1ポイント、県正答率よりも1.4ポイント低い。 ○整数-小数のひき算については県と比較してよくできている。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解や、工夫した計算の仕方については県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算処理はよく習得できているが、扱っている数字の意味の理解や、工夫して計算すること、それを説明することなど、深い理解には至っていない。今後は、習熟度別学習の発展コースを中心に、考える活動を意識的に多く取り入れていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は市正答率よりも1.4ポイント、県正答率よりも0.9ポイント低い。 ●はかりの目盛りの読み方については県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はかりは算数の授業での学習後、生活場面で活用する機会が少ないために忘れてしまっているものと思われる。算数に限らず、活用場を設けて身に付けさせたい。また、朝の学習の時間などに、他の内容も含めて、系統的に復習する機会を設ける。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は市正答率よりも4.1ポイント、県正答率よりも4.7ポイント低い。 ●正三角形の作図については県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の作図は算数の授業での学習後、他の単元で活用する機会が少ないために忘れてしまっているものと思われる。朝の学習の時間などに、他の内容も含めて、系統的に復習する機会を設ける。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の正答率は市正答率よりも2.5ポイント、県正答率よりも2.7ポイント高い。 ○□を使った式に合った文章題を選ぶことについては、県と比較してよくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を解く際に、図や数直線を用いる機会を多く設けていることが、市や県と比べて高い正答率に結びついていると思われるので、今後も継続する。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.7	61.9	59.4
	生命・地球	68.4	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.6	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	58.5	61.0	58.8
	観察・実験の技能	69.5	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	64.7	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は市平均よりも1.2ポイント低く、県平均よりも1.3ポイント高い。 ○光のせいしつのはね返した光を重ねたところの明るさの問題が、県と比較してよくできている。 ●電気の通り道の電気工事を行っている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を問う問題の正答率が25.5%と低く、定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気を通さない物の理解が不十分であるため、実験や観察の際に、教科書に書かれているもの以外で、身近な物で電気を通さない物を紹介し、理解を深めていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は市平均より、1.4ポイント低く、県と比較するとほぼ同じである。 ○太陽と地面の様子、温度計を正しく読む問題が、県と比較してよくできている。 ●こん虫の育ち方の、トンボの育ち方を理解し、ヤゴを正しく飼うことができるかを問う問題が県と比較して、定着が不十分である。 ●太陽と地面の様子、太陽とかげの動きの問題が県と比較して、定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完全変態と不完全変態の違いを映像や掲示資料を用いて、視覚的に理解できるようにする。 ・授業の始め等に方位の確認を行い、方位の位置関係を理解できるようにする。その際に、太陽の動きについても触れることにより、方位と太陽の動きの関係の理解の定着を図っていく。

宇都宮市立岡本小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己肯定感に関することとして、「自分は勉強がよくできる方だと思う」に対する肯定的回答は76.6%で県平均より15.9ポイント高い。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」が76.6%で県平均より11.2ポイント高く、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」が74.5%で県平均より15.9ポイント高い。今後も授業や体験活動を通して児童に自信をもたせることができるように努めていく。

○授業に関することとして、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」との質問に対する肯定的回答は91.5%で県の平均より17.7ポイント高い。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」に対する肯定的回答は87.2%で県平均より7.4ポイント高く、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に対する肯定的回答は57.4%で県平均より3.4ポイント高い。今後も授業の中で主体的・対話的な学びを取り入れ、児童の深い学びにつながる授業に取り組むよう努めていく。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」との質問に対する肯定的回答が55.3%で、県平均よりも19ポイント低い。宇都宮モデルに示されている通り、授業後のふり返り活動を実施し、授業の知識定着に努める必要がある。

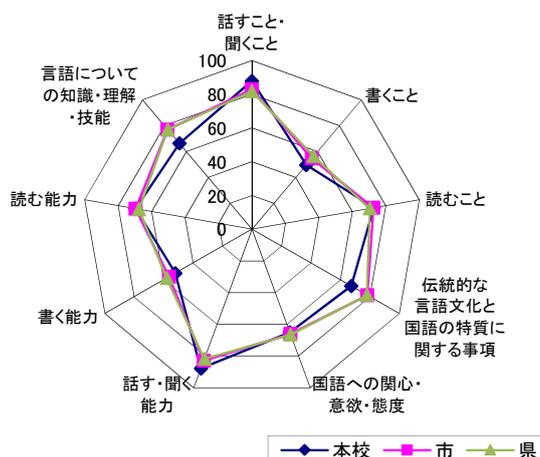
○読書に関することとして、「1か月に、何冊くらい本を読みますか」との質問に5冊以上読むと回答した児童63.8%で県平均よりも12.1ポイント高い。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」に対する肯定的回答は46.8%で低い。授業と関連する本を紹介するなど児童の興味を広げ、様々な本に親しむ取り組みに努める必要がある。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	87.9	82.9	81.8
	書くこと	49.7	54.8	56.5
	読むこと	72.8	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.4	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	65.1	66.0	66.4
	話す・聞く能力	87.9	82.9	81.8
	書く能力	52.1	56.3	57.9
	読む能力	69.6	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	66.4	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

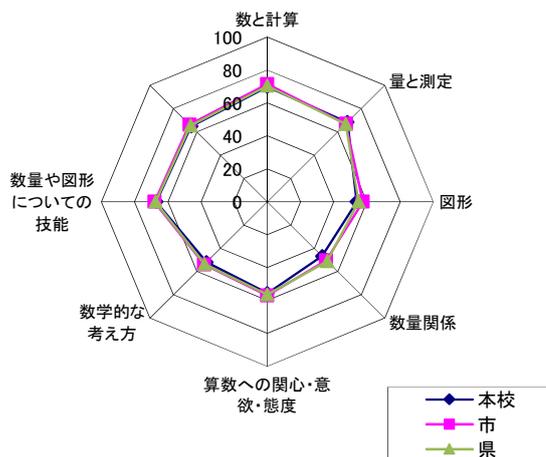
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の平均正答率は市平均よりも5ポイント高く県平均よりも6.1ポイント高い。 ○話し方の工夫に注意して聞き取る問題は県の正答率に比べ、96.1%と高い正答率を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教育活動全般において自分の考えを表現する機会を多く取り入れる。 ・国語の授業だけでなく他の教科においても、小グループ・クラス全体等、形態を工夫し、話し合い活動を積極的に取り入れ、話の中心を考えながら聞いたり自分の考えを書いたりしてから伝える機会を増やしていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の平均正答率は市平均よりも5.1ポイント低く県平均よりも6.8ポイント低い。 ○情報を適切に取り取り、ポスターの文を書く問題は市や県よりも12.2%上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を整理したり文字数を制限したりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので、国語の授業などで要約したり、条件を付けて作文を書く練習をしていく。 ・日記や作文指導に継続して取り組んだり、目的意識をもって与えられた条件で文章を書く機会を設けたりするなどして、日常的に書く活動を増やしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の平均正答率は市平均よりも0.2ポイント高く県平均よりも2.3ポイント高い。 ○物語文において、場面の様子を読み取る問題が市や県と比較してよくできている。 ●説明文において、文章の内容を的確に読み取る問題が市や県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ等を活用して実体験を伴わない文章に触れる機会を増やし、内容を簡単に説明する活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 領域全体の平均正答率は市平均よりも11.0ポイント低く県平均よりも10.7ポイント低い。 ●特に文の構成について理解しているかの問題は、県の平均よりも13.6%低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字に関しては、今までの漢字の復習を行い、定着していないものに関しては、反復練習を取り入れる。また、文章を書く活動で、既習の漢字をしっかりと使えているか丁寧に添削を行い、定着を図る。漢字の「とめ・はね・はらい」に注意しながら書けるようにする。 ・言葉の学習に関しては、学習した言葉を短文・詩作りなどを始め、日常生活の中でも繰り返し使用して定着を図り、自分のものとして活用できるようにしていく。 ・漢字辞典を身近に置き、分からない漢字や成り立ちなどをすぐに調べる習慣を身に付け、漢字辞典の活用を図る。

宇都宮市立 岡本小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.9	71.5	70.4
	量と測定	68.3	67.0	66.9
	図形	53.9	57.6	55.0
	数量関係	46.7	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.6	57.0	56.3
	数学的な考え方	51.9	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	67.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	64.9	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

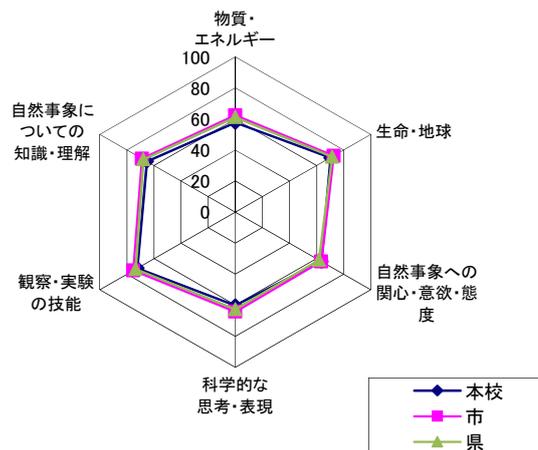
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は市正答率よりも1.6ポイント、県正答率よりも0.5ポイント低い。 ○数の相対的な大きさの理解、分数の大小関係については県と比較してよくできている。 ●小数＋整数のたし算、概数の表し方については県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数＋整数のたし算、概数の表し方は、授業で学習した直後には概ねよく習得できているので、活用する機会が少ないために忘れてしまっているものと思われる。朝の学習の時間などに、他の内容も含めて、系統的に復習する機会を設ける。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は市正答率よりも1.3ポイント、県正答率よりも1.4ポイント高い。 ○180°より大きい角の求め方、身近にあるもののおよその面積については県と比較してよくできている。 ●複合図形の面積の求め方については県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な内容については概ねよく身につけていると思われるので、複合図形の面積の求め方など、発展的な問題にも数多く取り組ませる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は市正答率よりも3.7ポイント、県正答率よりも1.1ポイント低い。 ○立体の辺の関係については県と比較してよくできている。 ●四角形の対角線の性質については県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四角形の角の直角と、対角線の垂直を勘違いしていると思われる誤答が多かったので、用語について正しく理解させると共に、問題をよく読み、よく考えて回答する習慣を身につけさせたい。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の正答率は市正答率よりも3.5ポイント、県正答率よりも4.4ポイント低い。 ○伴って変わる二つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることは比較的よくできている。 ●伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことについては理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量関係を式に表すことは児童にとって難易度の高い学習であるが、定着が図れるよう繰り返し指導する。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.7	62.4	61.1
	生命・地球	70.2	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.5	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	60.1	64.1	62.6
	観察・実験の技能	72.3	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	65.3	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも4.7ポイント低く、県平均よりも3.4ポイント低い。 ○電気のはたらきの電流を強くする乾電池のつなぎ方を問う問題が、県と比較してよくできている。 ●物の体積と温度の水をあたためると体積がどうなるかを問う問題が、県と比較して定着が不十分である。 ●水のすがたの、水の状態変化を問う問題や、グラフから水の状態を読み取る問題が、県と比較して定着が不十分である。 ●電気のはたらきの電流についての問題が、県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想→実験→結果→考察を手順を踏んで進めていく。 ・用語の意味や定義の理解が不十分であるため、実験や考察の際に、固体、液体、気体の定義や電流や回路などの用語の意味をしっかりとおさえる。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域全体の平均正答率は、市平均よりも2.3ポイント低く、県平均よりも1.2ポイント低い。 ○1年間の植物の成長の秋のサクラについての問題が、県と比較してよくできている。 ○自然の中の水の容器にふたがあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつく問題が、県と比較してよくできている。 ●月と星の月の形の名称や示された方位から他の方位を問う問題が、県と比較して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科と関連を図りながら、方位についての理解を深める。 ・月の観察は授業で実施するのは難しいので、具体的に月の動きを体験できる模型等を活用していく。

宇都宮市立岡本小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己肯定感に関わるものとして、「じぶんはクラスの人の役に立っていると思う」との質問に対する肯定的回答が68.7%で県平均よりも10.5ポイント高い。また、「自分は勉強がよくできる方だと思う」が68.7%で県平均よりも10.5ポイント高く、「自分には、よいところがあると思う」が96.1%で県平均よりも16.9ポイント高い。「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の質問に「はい」と回答が90.2%で県平均よりも16.8ポイント高い。今後もクラスでの係活動や当番活動を積極的に取り組み、ギネス活動のような目標を設定し達成感が味わえる活動を行い、授業でも自信が持てる活動を積極的に取り入れていく。

○家庭との関係に関わるものとして、「自分は家族の大切な一員だと思う」に対する肯定的回答は100%で、県平均より8.2ポイント高く、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」が92.1%で県平均より9.7ポイント高い。また、「家の人と学校でのできごとについて話をしている」が96.1%で県平均よりも12.7ポイント高い。児童が家庭の中で安心して過ごし、認められて育てられている感覚を持って過ごしていることを家庭に伝え、引き続き良好な関係を保ってもらえるように啓発していく。

○家庭学習に関わるものとして、「家で、学校の宿題をしている」に対する肯定的回答は100%で、「学校の宿題は、自分のためになっている」との質問に「はい」の回答が82.4%で県平均よりも13.7ポイント高い。

●一方で、「家で、学校の授業の復習をしている」との質問に対する肯定的回答は56.9%で、県平均よりも11.4ポイント低い。また、学校の授業時間以外の勉強時間について、平日一時間以上学習している児童は35.3%、休みの日に一時間以上学習している児童は27.5%と低い。「自主学習のすすめ」を指導に取り入れ、児童が取り組んだ自主学習を他の児童に紹介したり、自分の苦手や間違えやすい問題を把握させたくらうで、自主的に家庭学習に取り組む機会を増やしたりする指導に努める。

○授業に関わるものとして、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」との質問に対する肯定的回答は82.4%で県平均よりも10.7ポイント高い。

●一方で、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」との質問に対する肯定的回答は51%と低く、「クラスは発言しやすい雰囲気である」が72.5%で、県平均よりも9.3ポイント低い。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている児童が64.7%で県平均よりも7.9ポイント高い。グループ活動で、自身の考えを発表したり、他人の考えから自分の考えを広げたりする機会を意図的に取り入れ、学習に対する自信を高める指導に努めていく。

宇都宮市立岡本小学校（第4・5学年共通）

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語に興味を持たせる指導の工夫と言語能力の育成	各学年・各教科で、言葉の特徴やきまり、教科の重要語句に重点を置いた指導を行うと共に、他の単元や教科でも既習の語句を繰り返し取り上げて意識させることで、言語に興味を持たせ、その定着を図る。	言葉の学習に関する問題の平均正答率は、4年生で60.3%と市平均や県平均と比較してそれぞれ7.6ポイント、7.9ポイント低く、5年生は、66.4%で市平均や県平均と比較してそれぞれ10.8ポイント、10.7ポイント低い結果となっており文の構成に関する学習内容の定着が不十分な様子が見られる。また、理科では、水の状態変化や電流に関する用語の定着が不十分である。
身に付けた言語能力を生かして考えを表現し、伝える授業の工夫	学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を心掛けたとともに、友だちと意見交換をし合う場を意識的に設け、話し合いを通じて、考えを深めたり広めたりする手立ての工夫を行う。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が87.3%で、市平均や県平均と比較してそれぞれ3.6ポイント、4.1ポイント高く、5年生は、84.4%で市平均や県平均と比較してそれぞれ3ポイント、2.7ポイント低い。